



TITLE:

観測案内

AUTHOR(S):

木邊

CITATION:

木邊. 観測案内. 天界 1937, 17(195): 357-358

ISSUE DATE:

1937-06-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167483>

RIGHT:

觀 測 案 内

木 邊 生

7 月 梅雨が明けると急に暑くなる。デ1デ1蟬の木梢も懐かしい。鎌倉銀座には色とりどりにビ1チパラソルの華が咲けば、アルプス銀座にはバツトとキヤラメルとフィルムとの空箱が散亂する。使ひもせぬザイルやピツケル、下駄の様なゾンメルシーを、一かどの通ぶつてヒヤカス銀座登山者も出れば、世は裸形と氷とビールとの泡のインフレーションである。梅雨で氾濫したんじや無いかと思ふ程の銀河が東を流れ、中に琴、白鳥、鷺と、夏の清涼味を漂はせて居る。孔子様の御感化か、東洋の傳説は一體に殺風景だが、其れだけに“七夕”は一層麗はしい。7月7日此の日今宵の一夜、然も雨が降れば流される“鵲”の橋に托した其のつつましやかな情緒の前に、今日は微かな赤道儀のクロツクの音も、何時に無く讃歌と響いて、ヴェガの瞬きは、とはに變らぬ乙女ごころの鼓動を傳へる。

天候シ1ینگ 高氣壓が小笠原の附近に腰を降ろすと、梅雨は朝鮮から滿洲に追ひ込まれて、本當の夏になる。同時に相當晴れが続くが雷雨が屢々起つて氣流を攪亂する。南東のそよ風が吹いて居れば先づ晴れだ。シ1ینگは6月よりは少し悪くなる様である。

太陽 日中は暑く、又上昇氣流が激しい爲に、像がボヤケタ様になる。夕方には亂積雲が出現し易いので、従つて朝ナギを逃さない様にすれば、先づ相當好成績だろう。

遊星面 火星も漸く遠退き初めた。視直經も $15''86-12''67$ 迄減少する。然し未だ未だ觀測の好機であり、特に中旬には火星の北半球が秋分を過ぎ反對に南半球が春分を過ぎて、模様のコントラストが反對に移行する。

引續いて木星が出て来る。白ツボイ圖體も、反射鏡を通じて見ると色合は實に美しい。5月には赤斑の帯が最も白く、赤斑は軽い煉瓦色をして居り、赤道帯は帶黄色、北熱帯の黒い Belt は本當にチョコレート色をして居る。其等が錯雜した detail の上に重つて、特に中央赤道帯を良シ1ینگの時に見ると、太陽の米粒狀組織に似て、無數の斑點で構成されて居る。兎に角、

色合を見るのには 10cm 級で充分だらう。

土星や金星は曉にあるので、縁遠いが、久し振りに輪の向きの變つた土星は見物である。

恒星界 一番美しい銀河の流れを、双眼鏡で追つて見るのが良い。星團星霧は小望遠鏡向きのが多い。射手、蛇遣ひ、白鳥等は變光星の巢窟である。同じ銀河でも、此の邊りは冬のオリオン、双子の邊に比較して、總ての點に豊富である。ただ1等星が見掛上駈ないだけである。銀河プロツクの中心が射手にあるとは又宜なるかなだ。夜半も更けると、靜かにペガスと水瓶等の秋の星座が、音も無く昇つて來て、休みなき月日の流れを教へて來れる。

其他の天體 小遊星パラス (2) が7月10日對衝に來る。位置を示すと。

日 付	赤 經	赤 緯	
6月20日	19 ^h 30.8	+21°25'	光度は對衝時 9.2 ^m 小望遠鏡
28日	19 24.9	+21 30	とバイエル、グラフ程度の
7月 6日	19 18.5	+21 18	星圖があれば見える。又小
14日	19 12.0	+20 49	型の寫眞機で一日隔てて撮
22日	19 5.6	+20 3	影すればすぐ見付かる。
30日	18 59.7	+19 2	
其他 (15) Eunomia	7月 6日	18 ^{m h} 53.4—26°14'	光度 8.7
(532) Hercules	7月10日	19 18.9—19 22	光度 9.8 も對衝に來る。

昨 年 の 記 録

	6 ^h	21 ^h	
平均雲量	7.0	5.8	
平均氣溫	+21°9C	+23°3C	
太陽黒點	相對數 1 日平均	59.0	觀測日數 22 ^d

昨年7月の出來事 5日部分月食(0.273)

下旬ペルテア1彗星肉眼に尾が映じた。(光度3等級)

編輯後記 ペル1の日食も既に終つた。その結果は別項の如く大成功!!! 誠に慶祝の到りである。尙その觀測隊よりの興味ある便りは目下續々到着しつつあるので、大いに御期待を乞ふ。又水星日面經過の觀測も終り、公文氏より早速その觀測記を書いて頂いた。今月は紀行文が多かつたので新知識の頁を少し増して天體の話題を多くする事に務めた。(星見)